Koyo SSH news 2022 第17号

編集：SSH 推進部
発行日：R04.12.22

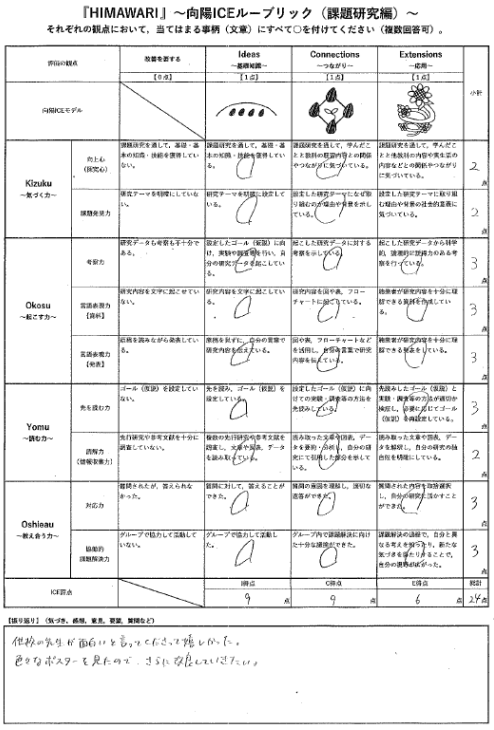
和歌山県高等学校生徒科学研究発表会に参加しました！

12 月 13 日（火）に開催された令和 4 年度和歌山県高等学校生徒科学研究発表会@ビッグホエールに，2 年生環境科学科と 2 年生普通科理系，1 年生環境科学科の生徒が参加しました。2 年生の生徒はポスターセッションを行い，1 年生の生徒は聴衆者としてポスターセッションに参加しました。本校以外にも県内からは海南高校，日高高校，田辺高校，近畿大学付属和歌山高校，新宮高校の生徒さんたちが出席し，自分たちが行っている課題研究について，積極的に意見を交換することができました。口頭発表のセッションもあり，本校からは数学ゼミの河野新汰さん，岸田時尚さん，福田桃花さん，堀端大貴さん，前岡伸之介さんの班が「【農業×グランピング】で導き出す和歌山の未来」というテーマで口頭発表を行いました。ポスターセッションでは，68 テーマのポスターが掲示され，2 年生環境科学科と 2 年生普通科理系の生徒は一生懸命に発表を行い，1 年生環境科学科の生徒は熱心に発表を聞いている姿が印象的でした。

以下，生徒の感想です。

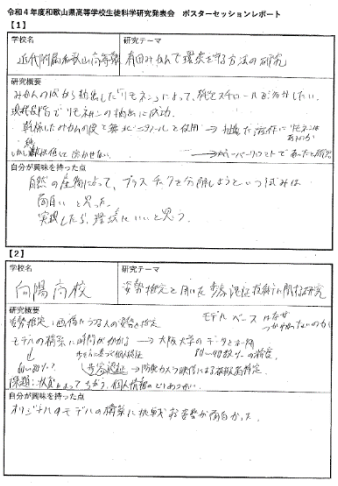
『いろんな班の発表を聞いて，自分たちに足りないものが多くあることがわかった。原稿を見ずに自分の言葉で発表するのが難しかった。』『いろんな学校の発表を聞けたので，いろんな経験があり，良い経験になった。』『何人かの大学の先生に今後の研究に生かせるようなアドバイスを教えてもらってうれしかった。』『他校の生徒と交流できたのがいい経験になった。』『ポスターセッションをして自分が少し勘違いしていたところがあって，そこを仲間と話し合って解決できた。』『たくさんのポスターがある中で自分たちのものを選んでくれたときはうれしかった。』

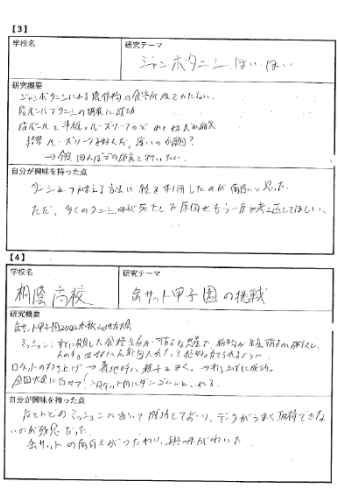
2 年生は発表後，『HIMAWARI～向陽 ICE ルーブリック（課題研究編）～』を用い，自分たちの課題研究について振り返りました（右図）。今後の研究に期待です！1 年生は以下のような PS レポートを作成してもらいました（下図）。


『HIMAWARI』～向陽ICEルーブリック（課題研究編）～
それぞれの観点において，当てはまる事柄（文章）にすべて○を付けてください（複数回答可）。

評価の観点		放置を恐れる【0点】	Ideas ～基礎知識～【1点】	Connections ～つながり～【1点】	Extensions ～応用～【1点】	小計
向陽ICEモデル						
Kizuku ～気づく力～	向上心（探究心）	課題研究を通して，基礎・基本の知識・技術を獲得していない。	課題研究を通して，基礎・基本の知識・技術を獲得している。	課題研究を通して，学んだことと他科目の関連内容との関係やつながりに気づいている。	課題研究を通して，学んだことと他科目の内容や異なる学の内容などとの関係やつながりに気づいている。	2点
	課題発見力	現在テーマを模索している。	研究テーマを模索し，設定している。	設定した研究テーマに関する情報から関連分野を示している。	設定した研究テーマに取り組む社会や将来の社会的意義に気づいている。	2点
Okosu ～起こす力～	考察力	研究データも考察も不十分である。	設定したゴール（仮説）に向け，実験や調査を進めている。自分の研究データを出している。	得たした研究データに対する考察をしている。	得たした研究データから結論や，調査時に調査力のある考察を行っている。	3点
	実践表現力【説明】	研究内容を文字に起こせていない。	研究内容を文字に起こしている。	研究内容を図や表，フローチャートに起こしている。	論理的に研究内容を十分に理解できる説明を行っている。	3点
	実践表現力【発表】	結果を調べながら発表している。	発表を見ずに，自分の言葉で研究内容を話している。	図や表，フローチャートなどを活用し，自分の言葉で研究内容を話している。	論理的に研究内容を十分に理解できる説明を行っている。	3点
Yomu ～読む力～	先を読む力	ゴール（仮説）を設定していない。	先を読み，ゴール（仮説）を設定している。	設定したゴール（仮説）に向けての実験，調査等の方法を先読みしている。	先読みしたゴール（仮説）と実験，調査等の方法の関係が検証し，自身の力にてゴール（仮説）を再設定している。	3点
	調査力（情報収集力）	先行研究や参考文献を十分に調査していない。	複数の先行研究や参考文献を調査し，文章や図表，データを読み取っている。	読み取った文章や図表，データを要約・分析し，自分の研究に活用した提案をしている。	読み取った文章や図表，データを解釈し，自分の研究の独自性を模索している。	2点
Oshieau ～教え合う力～	対応力	質問されたが，答えられなかった。	質問に対して，答えることができた。	質問の意図を理解し，説明なできた。	質問された内容を論理展開し，自分の研究に活かすことができた。	3点
	協働的課題解決力	グループで協力して活動していない。	グループで協力して活動した。	グループ内で課題解決に向けた十分な議論ができた。	課題解決の過程で，自分と異なる考え方を学ぶ中，新たな気づきを得ることで，他者の課題解決ができた。	3点
ICE評点			評点 9点	C評点 9点	E評点 6点	総計 24点

【振り返り】（気づき，感想，意見，要望，質問など）
他校の先生が面白いと言ってくださって嬉しかった。
色々なポスターを見たので，さらに改良していきたい。


令和4年度和歌山県高等学校生徒科学研究発表会　ポスターセッションレポート
【1】
学校名：近畿大学和歌山高等学校
研究テーマ：「青田刈りから環境を守る方法の研究」
研究概要：
自分が興味を持った点：
【2】
学校名：向陽高校
研究テーマ：
研究概要：
自分が興味を持った点：


【3】
学校名：
研究テーマ：
研究概要：
自分が興味を持った点：
【4】
学校名：和歌山高校
研究テーマ：
研究概要：
自分が興味を持った点：